

Profile

テノール ◆ 米澤 傑 *Tenor ◆ Suguru YONEZAWA*

鹿児島大学医学部教授を経て、現在、同大学名誉教授。医学博士。「日本病理学賞」、「高松宮妃癌研究基金学術賞」「鹿児島県芸術文化奨励賞」受賞。がんマーカー論文の著者世界ランキング第6位（日本人第1位）。現在、キラメキテラスヘルスケアホスピタル・トータルウェルネスセンター・センター長。

松本美和子氏に師事。日本クラシック音楽コンクール声楽部門第1位・グランプリ獲得。太陽コンコルト・カンツォーネ・イタリアーナ優勝。オペラ「蝶々夫人」や「カルメン」の主演、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、ロッシニ「スタバト・マーテル」、ハイドン「スタバト・マーテル」、メンデルスゾーン「最初のワルブルギスの夜」等のソリストとして大好評を博す。国内外で歌い、世界的名テノールのN. マルティヌッチとのジョイントリサイタル（東京芸術劇場）では、ニューヨークの音楽記者が“米澤の歌った「清きアイダ」の最後の高音は、メトロポリタン歌劇場でも聴いたことのない素晴らしいものであった”と世界中に発信した。オペラ「トゥーランドット」のカラフ王子役を、イタリアでは「サンタマルガリータ音楽祭」（G. プロイエット指揮）で演じ、日本では「藤沢オペラ（若杉弘指揮・ベリオ版日本初演）」で、日本を代表するテノール歌手・福井敬氏とダブルキャストに抜擢され、大絶賛された。皇后陛下（現・上皇后）のご臨席を賜り、サントリーホールで開催されたモーツァルト「レクイエム」のソリスト、徳島での「第九」アジア初演100周年記念「よみがえる第九」のソリスト等で大成功を収める。

ブルガリアでレコーディングしたCD「誰も寝てはならぬ / 米澤 傑 テノール・オペリア集（G. ステファノ指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団）」は、ヒットチャートで度々第1位（検索：楽天市場 米澤傑）。

指揮者・井上道義氏に「日本のホセ・カレラス」と絶賛され、NHKテレビ「第九をうたおう」（井上道義指揮）にレギュラー出演、また、FM名曲リサイタル、芸術劇場「二つの顔をもつ音楽家」、ならびに、ラジオ深夜便に出演。

ピアノ ◆ 今岡 淑子 *Piano ◆ Yoshiko IMAOKA*

相愛大学卒業、同大学ピアノ研究生修了。ソロのみならず、伴奏者としての信頼も厚く、多数の演奏会やNHK-FMに出演する他、CD録音に参加する等、幅広く活躍している。音楽現代新人賞、宝塚バガ音楽コンクール第3位、京都芸術祭優秀伴奏者賞受賞。また、指導者としてピティナ「特別指導者賞」、日本クラシック音楽コンクール「優秀指導者賞」、バーテン音楽コンクール「優秀指導者賞」等の受賞も多く、演奏・指導の両方で高い評価を得ている。現在、武庫川女子大学音楽学部教授。兵庫県立西宮高校音楽科講師。

第86回 朝の光のクラシック

米澤 傑 テノール・リサイタル

Suguru Yonezawa Tenor Recital

2022年6月18日（土）
午前10時30分 開演

あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール

主催：朝の光クラシック実行委員会
企画・運営：ハーベスト・コンサーツ
特別協力：あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール

Program

G. プッチーニ ◆ 誰も寝てはならぬ(トゥーランドット)

F. P. トスティ ◆ 歌曲集

魅惑/マレキアーレ/かわいい口もと/秘密/私の歌

C. グノー ◆ この清らかな住まい(ファウスト)

G. ビゼー ◆ 花の歌(カルメン)

H. マンシーニ ◆ ムーン・リバー

S. フェイン ◆ 慕情

U. ジョルダノー ◆ ある日青空をながめて(アンドレア・シェニエ)

E. デ・クルティス ◆ 忘れな草

S. カルディロ ◆ カタリ・カタリ

E. ディ・カプア ◆ オーソレミオ

Program Notes

誰も寝てはならぬ:美しいトゥーランドット姫の三つの謎を見事に解いたダッタンの王子カラフは、姫に“私の名前を答えよ”と謎を出し、若者の名前が判るまでは“誰も寝てはならぬ”という姫の御触れを聴きながら、勝利を確信してこのアリアを歌います。

魅惑:貴女がくれた花に触れると、私の心は震え、その香りは私の想いを乱した。貴女が私を見ると、陶酔が私を襲い、貴女が語りかけると、私は死ぬ想いだ。

マレキアーレ:マレキアーレに月が昇ると、窓辺で私の情熱が掻き立てられる。目を覚まして・・・私のカルリよ・・・大気は甘い！

かわいい口もと:小さい花のような、ほんの少し色褪せたかわいい貴女の口もと！小さいバラのようなその口もとに似た小さな口づけを・・・

秘密(ひめごと):私はその女(ひと)を愛しているが、その秘密を打ち明けられない。顔をじっと見つめていたいのだけれど、心は震え、目も上げられない。

私の歌:私の歌は甘いささやき。冷たい空気の中で、貴方のもとへ飛んでゆく。貴方がひとりで眠っている今、私の歌は愛のときめきなのだ。

この清らかな住まい:悪魔から魂と引き替えに青春を取り戻したファウストは、マルガレーテの家の前でその清らかさを讃えて歌います。

花の歌:ドン・ホセは、以前、カルメンがくれた今や萎れてしまった花を見ながら「お前が投げってくれたこの花は」と歌います。

ムーン・リバー:映画「ティファニーで朝食を」で、主演女優のオードリー・ヘプバーンが劇中で歌った曲です。

慕情:映画「慕情」の主題歌は映画音楽史上の名作と言われます。フェインは歌劇「蝶々夫人」の“ある晴れた日に”を参考に作曲したと言われています。

ある日青空をながめて:フランス革命時の詩人のアンドレア・シェニエは、伯爵令嬢のマッドレーナに、本当の“愛”の素晴らしさを情熱的に伝えます。

忘れな草、カタリ・カタリ、オーソレミオ:カンツォーネの代表曲をお楽しみください。